

令和6年度第1回千葉市新基本計画審議会スマートシティ部会 議事要旨

1 日 時 令和6年8月20日（火）10時00分～11時00分

2 場 所 Web開催（千葉市役所3階 L303会議室）

3 参 加 者 ≪委員≫5名（五十音順）

越塚 登委員、高梨 園子委員、南雲 岳彦委員、沼尾 波子委員、森川 博之委員

≪事務局≫2名

中臺未来都市戦略部長、滝田スマートシティ推進課長

4 議 題

（1）副部会長の選任について

（2）スマートシティ推進ビジョンの見直しについて

5 議事概要

（1）副部会長の選任について

森川部会長の指名により、越塚委員が副部会長に選任された。

（2）ビジョンの実現に向けた推進方法について

千葉市スマートシティ推進ビジョンの見直しについて、事務局より説明を行い、委員との意見交換を行った。

6 会議経過

～以下、議事要旨～

議題（1）副部会長の選任について

森川部会長が越塚委員を副部会長に選任した。

議題（2）スマートシティ推進ビジョンの見直しについて

（事務局）千葉市スマートシティ推進ビジョンの見直しについて、資料1をもとに、説明を行った。

<意見交換>

森 川 部 会 長	ただいまの説明を受けて、意見やコメント、事例紹介があればお願いしたい。
南 雲 委 員	見直しの方向性については事務局の案に異論なし。今後、国の動向による言葉の微妙な変化があるかもしれないが、大きな流れは変わらないと考える。
	データ連携基盤については都道府県で1つとし、来年度以降、県が県下の市区町村と連携基盤をどのようなものにしていくかを議論していくこととなる。
	ウェルビーイング指標については、千葉市は先進的に取り組んでいるので、そのまま取り組みを進めていただきたい。指標の活用自治体は、現在約100自治体となって

おり、日々増え続けている。国全体で、GDPのみを考える時代からウェルビーイングという多面的な考え方を取り入れ、SDGsの後継としてのサステナブルウェルビーイングゴールズに向かう流れがきていることが伺える。

デジタル化横展会推進協議会は、自治体と民間企業が自律的に運営する中に中央官庁が必要に応じて呼び込まれるという、デジタル庁が中心となった従来の進め方から逆転した取り組みであるので、注視しながら進めてほしい。

森川部会長

南雲委員におかれては、ウェルビーイング指標について、多く自治体での講習を実施したということだが、どのように実施したかなど、ご教示いただきたい。

南雲委員

ウェルビーイング指標に関しては「OASIS（オアシス）」という名前の研修プログラムを6か月にわたり実施した。最初の2回はウェルビーイングとはなにか、なぜ今ウェルビーイングなのか、ウェルビーイングをデータでみると日本人はこうなっている、という比較的座学に近いもので、3~5回目がワークショップ形式となっている。千葉市のデータを見ながら、24個のウェルビーイング因子のうち、どの因子を強めていくことが千葉市の幸せに寄与するのか、ということについて、ロジックツリーやロジックモデルを使った政策デザインを行い、最終回6回目に市長あての発表を行う。研修の中ではあるが、リアルなデータを使ってリアルな政策を作っていくため、自治体にとって自分事化できる研修となっている。全国で展開して現在約20都市で実施している。全国同じやり方で学んでおり、受講者はSlackというコミュニティで自分たちが作った資料を共有しながら、他の自治体の良いところどりをし合える関係を作っている。中には、今年度2年目で2回転めのOASIS研修を始めている自治体もあるため、データを使うフェーズに向かっていると理解していただきたい。

森川部会長

事務局からの説明で、千葉市のウェルビーイングレーダーチャートは非常にバランスが良いと南雲委員がコメントされたとのことだが、そうなのか。

南雲委員

都市のレーダーチャートについては、個性がそれぞれあることを大切にしようというのが基本的なメッセージになる。大都会になるほど、円は大きくなり、形は非常にいびつになる。千葉市のように「働く」と「暮らす」のバランスが良いところは円が丸みを帯びる。郊外へ行くほどバランスは取れているが、丸が小さくなる傾向がある。

大都会は、「住宅環境」や「自然の恵み」が著しく低くなり、その代わり「雇用」や「都市機能」が飛びぬけて大きくなるというように、何かに特化した形になり、欠けたものが出るケースが多い。千葉市は政令指定都市だが、うまくバランスが取れているのが特徴だといえる。

また、このレーダーチャートを分析する枠組みを複数用意している。レーダーチャートでは全国平均を50とした時の偏差値を表示していて、SWOT分析を行い、千葉市らしさが何か、というビジョニングを行うためのステップがある。

高梨委員

千葉市のレーダーチャートについては、バランスが取れていることを理解した。ただし、千葉市の今後の魅力として、バランスが取れているだけで良いのか、どのように強い部分や弱い部分に対して取組みを進めていくのかなど、レーダーチャートはまた色々な形に変化していくと思うので、今後、10年後20年後に向けてどう進めていくのか興味がある。

越塚副部会長

千葉市は目指すスマートシティの実現に向けて、先進的に取り組まれて、そのスマートシティの取組みもある程度年数も経った。全国のスマートシティも、例えばデ

ータ連携基盤もそうだが、インフラについては公的資金もあり整備も進み、次の段階に来たと感じる。デジタル化横展会推進協議会もその1つの象徴で、システムはある程度出来上がり、中身のデータを「作るから使い倒す」という方向になっている。データを使う単位も基礎自治体だけで単独で、というよりは少しスケールさせて、例えば都道府県単位で取り組んだ方が良いケースもあるかもしれないし、逆に基礎自治体だと大きすぎて町内会とかローカライズした方が良いこともあるかもしれない。データ連携基盤の都道府県での共同利用に関しては、都道府県で各分野で1個となっており、分野が違えば複数あっても良いような、余地を残している。国の方針としては、データ連携基盤を入れた後、コストがかかりすぎてしまって、途中でやめるぐらいであれば、その後発展させるためにコストを下げるための工夫を色々してほしいということだと思うので、広域で連携するのも一つのアプローチだが、それ以外のことも幅広く考えても良い。

スマートシティに関しても、官に依存しない体制にどういう風にしていくかを考える必要があり、最近ではデジタル公共財とかデジタルコモンズ概念が重要だとも言われている。官民連携で民の割合をだんだん強くしながらスマートシティをどう実施していくか、また、通常のこれまでのレガシーな都市づくりのなかで、官民連携や民間企業がどう頑張るかという手法は今までもあったと思うが、そこにデジタルの要素が入ってきた時に、デジタルを公共財的にどう扱うか、デジタルコモンズのような概念でやるのかなど、工夫して模索していく時期に来たと考えている。

最後に重要なこととして、人材育成がある。千葉市では南雲委員によりウェルビーイングの講習会など実施していただき、それが人材育成になっていると思う。やはり、まちづくりでは、箱物が入って、システムが入って、基盤が入ってというのは最初の一步にしかすぎず、まちを作っていくのはデジタル技術を活用しながらも、やはり人だと思う。人材育成を含めて、コミュニティをどう作るかというところにだんだんシフトしていくと思う。

沼 尾 委 員

ウェルビーイングにフォーカスして整理されたのが素晴らしい。幸福度指標を活用したスマートシティ推進のプロセスを考えた時に、指標をデータで把握した後、施策や事業に反映していくプロセスの整理や確認が一つ必要ではないかと感じる。また、資料の中では、因子群として「生活環境」と「地域の人間関係」と「自分らしい生き方」が書かれているが、「生活環境」や「人間関係」については政策として進めやすいところがあるかもしれないが、「自分らしい生き方」については、政策に落とし込むときに、さきほど越塚委員の意見にあったような人材育成のありかたにも関わってくる問題あり、整理しておく必要があると思う。

南 雲 委 員

ウェルビーイングについて、1点だけ補足させていただきたい。まず指標は政令指定都市の指標に関しては区レベルまでブレイクダウンができる形になっている。また、郵便番号区までさらにブレイクダウンできる形になっているので、例えば自分の通っていた学校の周りや市役所の周りとか駅前などをデータで見ることができる。さきほど沼尾委員より、自分らしい生き方へのフォーカスが重要という発言があったが、成長実感や多様性、寛容性は実は大きな影響を与える要素だということが日本全体で分かってきた。これらの要素がないと都市から人がいなくなる地域行政が信頼できるかということと雇用や所得がフォロワーを決めていて、幸せの高さを決めるのが多様性・寛容性と成長実感ということが、日本全体の共通項目だとい

うことが分かってきた。最近はリカレント教育も一つ大きなテーマになっているが、これを軸にしながら市のレベル・区のレベルでどういう政策を実施していくかが、市としての着眼点になるかと思う。

森 川 部 会 長

ウェルビーイングに関して、例えば高梨委員が所属する女性会の方々に対してインセンティブを出して取組みに巻き込めたら、オリジナリティが出るのではないかな。

高 梨 委 員

うまく巻き込めるポジションが組織的にあると良い。行政だけではなく、民間の中にもあると良い。市の委員会も年配者が多く、責任がある方たちの集まりになっているため、もっと若い人たちの声を取り入れていただきたい。

事務連絡

滝田スマートシティ推進課長

この部会の議事録については、事務局で作成し、各委員に御確認いただき、確定とさせていただきます。

一同

(異議なし)

滝田スマートシティ推進課長

次回は来年3月頃の書面開催を予定しており、追ってメールにて御連絡、調整をさせていただきます。

—閉会—